

重要な構成要素「おつけもの丸仁^{まるじん}」

建築：

参道の景観を構成する要素

「おつけもの丸仁」は、漬物を販売する木造2階建ての店舗で、間口2間（約3.6m）の小規模妻入り^{つま}（注）町屋です。隣接する4軒の同じ建築類型のまちなみは、敷地奥行も揃っており、参道沿いの店舗群の中でも一定の統一感を示し、この規模、建築類型に葛飾柴又ならではの参道のまちなみに見られる文化的景観の特徴があります。また、両隣にわずかながら空地がとられることによって、景観に一種のリズムを生み出しています。

参詣客を意識して、参道の他の店舗と棟の向きを合わせるとともに、参道側を開け放し、1階軒庇下で店頭販売を行い、近年に行われたファサードの改修の際、妻入り2階の破風部分^{はふ}に看板が設けられています。参道側の外観は、ファサードが連続した参道^{ひさし}において、屋根、庇などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。

（注）妻とは棟と直角の壁面のこと。妻入りは、妻に出入口を設ける建築形式。また、妻を正面とするもの。（広辞苑第七版）